

子どものネット・トラブル！ どう防ぐ？

子どもたちがインターネットがらみのトラブルに巻き込まれる事案が後を絶たない。特に、合格祝いや入学祝いなどで初めてスマートフォンを手にする子ども多いこの時期。子どものネットトラブルをどう防いだらいいか。教育情報化コーディネーター さん()の寄稿を10回前後の企画で連載する。

暦の上では春。高校合格の吉報を受け取る中学3年生が徐々に増えていく時期だ。人生最初の大きな関門を突破した3年生には心から祝福を捧(ささ)げたい。しかし、2、3月は子どもたちがとって深刻かつ重大なネットトラブルが頻発する時期でもある。特に3年生は要注意。高校合格と同時に、多くの生徒が親の承諾の下、スマホを持ち始めるからだ。

さまざまな機能を習得し、憧れのサイト、やりたかったサービスを端から試し、スキルとテクニックを上達させていく子どもたち。そんな彼らを批判するつもりは毛頭ない。しかし、この時期のネット初心者、畏(わな)や悪意に気付かず、深刻なトラブルに遭遇する例が後を絶たない。知らずに悪質な成人向け有料サイトに登録され、大金を請求されたり、気軽に入会したSNSで自分の個人情報や全公開してしまったり、個人が特定できる写真を公開し

中学3年生は要注意

親子で正と負の情報共有



イラスト・津田周平

てしまったり。ネットで知り合った知らない異性と実際に会いトラブルになった事例もある。

◇

こんな時、大切なのは親の支え。スマホ購入前にしっかりとルールを決めておけばトラブルは激減するはず。こんな例はどうだろうか。

①携帯を使う時間、場所のルールを決める(どこで、いつ使うのか)

②契約・お金の話をする(容量超過の追加課金の可否、ケータイ払い決済の可否等)

③親もロック解除できる状態にしておく(パスワード共有、親の指紋認証を登録等)

④SNS、ネットゲーム利用の可否とルール、課金の有無を確認

⑤フィルタリングを設定

端的に言えば「正と負、

両方の情報を共有する」こと。もつといえは「今まで以上に生のコミュニケーションを深める」ことだ。

最初からこの全てを話し合うのは無理かもしれない。しかし、何もなければ、狡猾(こつこつ)な良のある、善意と悪意が混ざった混沌(こんとん)とした世界へ無条件で子どもたちを放り出してしまつと同じ。

大人は子どもたちを守るために、できることをすべきだと思う。最新デジタル機器のトラブル回避法は、実はそれと真逆な、「人の温もりある、生のコミュニケーション」にこそある。こんな時代だからこそ、それを大切にしていきたいと思う。

(イラストは本紙・津田周平)

◇ *この企画は原則として木、土曜日付に掲載します。次回は25日付の予定。

ネット・トラブル

子どもの
どう防ぐ?

初代iPhoneの発売からはや9年。市場にスマートフォン(スマホ)が普及して久しい。販売会社の戦略もあつて、2年ごとに最新機種で乗り換えるのがコスト的に有利な現在の日本市場では、かなりの頻度でスマホの廃棄機種が出てくる。

ここでその是非を論じる気はない。ただ小中学生のいる家庭にとって、この「廃棄されたはずのスマホ」が「親に全く知られないままLINEやフェイスブック、写真投稿、動画投稿を行う」ト

ラブルの元凶になることを認識してほしい。

なぜこんなことが起こってしまうのか、理由は簡単。「スマホはパソコン」であり、SIMを抜いても家庭の無線LANにWi-Fi接続すればそのまま使えるからである。

普通、携帯電話やスマホはSIMというチップを装着し、電話会社からの電波により「電話機」として認識されている。機種変更をする際はそのSIMを抜き取り、新しい端末に入れ直すので、古い端末は一見「使えな

くなっている」ように見える。
しかし、Wi-Fi回線を使うことができれば、古い端末は「ネットに接続しているパソコン」

スマホはパソコン

古い端末でも機能は確認



S. TSUDA

でしかない。そうなれば現代っ子は、あつと言う間にさまざまなサイトへアクセスし、動画視聴はもちろんLINEやフェイスブックへの参加も簡

単にやっつてのける。

更に怖いのは、これと同様なことが、携帯型音楽プレーヤー、携帯型ゲーム機でも言えるということだ。

SONYウォークマンZシリーズ、「iPod touch」第3世代以降などは、中身はスマホと同じであり、LINEもフェイスブックもできる。ゲーム機であるプレイステーション・ポータブルやニンテンドー3

DSでもネットの閲覧ができ、掲示板への書き込みもできてしまう。

誤解しないでいただきたいが、この行為自体が「悪い」わけでは決していない。ただし、大人が子どもに「カメラ程度しか使えない」と渡した古い端末や、「ウォークマンなら」と買ってあげた音楽機器でも、条件さえ整えばどんなことでもできてしまう場合があることを知ってほしい。

大切なことは、機器類を子どもに渡す前に、保護者が最低限の特徴や機能をつかみ、その上で子どもとじっくり話し合い、使い方や利用方法を相談していくことではないだろうか。

ネット トラブル ③

どう防ぐ?



子どもの

ネット上でさまざまな人とコミュニケーションができる通信アプリ、いわゆるソーシャルネットワークサービス(SNS)が人気だ。中でもその代表格「LINE」は国内で5000万人以上が利用という定番中の定番。10代の利用率は極めて高く、高校生はほぼ100%が使っている。

しかし、SNSは光と影の両面が。芸能人のトラブルにも「LINEの画面では…」と登場するし、愛知県刈谷市や兵庫県のように「小中学生のLINEを禁止」と明記した自治体も出てきた。

会話のように「秘密」「悪口」

SNSで人間関係崩壊?

道具である。しかし、小中学生の相手は毎日顔を合わせる友人。急用やスケジュール調整もないのに「秘密の話(特

悪口」などを書いてしまう傾向がある。どちらも人間関係を損なう心配のあるデリケートな話題だが、これを青少年特有の「思いつきの話し言葉」でポンポンと

で後日非難されるなど、送った方も大変だが、実は受けたほうも大変。微妙な問題であっても「即時に」「文字での」返信を求められるからである。返事を保留しようとしても、LINEの既読機能により、相手にはメッセージを読んだことはしっかり伝わる。こうやってSNSのトラブルは現実の人間関係をグチャグチャにしてい

このように、子ども達のSNSは送り手も受け手も、深刻な人トラブルに巻き込まれる危険性が非常に高い。残念ながらこれを完全に防ぐ方法はない。現状では「やらないう」というのが最善の方法である。



送る。実は子ども達のネット書き込みは大人のそれとは全く違い、会話のように短い単語を連発するのが基本。推敲という概念が無いので結果的に「余計なひと言」を書いてしまつことも多い。「Aちゃんってムカつくよね」「明日、無視しようよ」「Aちゃんと私とどっちの味方なの?」なども、さつと送ってしまう。それを別人に転送され

子どものネットトラファル どう防ぐ?

前回、小中学生にLINEを使ってほしくない理由として「人間関係崩壊の心配を挙げた。今回は「時間的・心理的拘束の強さ」という面を見ていく。

まずは時間的拘束から。

文科省が2007年から毎年4月に小6と中3に行っている全国学力学習状況調査によると、携帯・スマホの利用時間が短い子どもは、それが長い子どもに比べ、明らかに正答率が高いという。具体的には、ネット利用が毎日30分未満の子と4時間以上の子では、どの教科でも平均14点以上

もの差が付く。つまり、ネットをやるほど学力が低くなることが証明されている。

また「LINEを使うほど学力は低下する。それは勉強・睡眠時間の長さより強い影響がある」との調査結果(東北大学川島隆太教授・仙台市教委「学習意欲の科学的研究」に関するプロジェクト「2015年3月19日」)も。平日の通信アプリ(SNS)の使用時間が学習時間や睡眠時間に悪影響し、結果的に数学の成績が落ちることを調査から導き出したそうだ。

これらの客観的データからも、LINEをはじめ

めとする通信アプリが学力に確実に悪影響を与えている事実が浮かび上がる。

スマホ依存、ネット依存という言葉が示すように、スマホやネットの魅

学力低下につながる

心も時間も支配される危険

依存してしまつ傾向があるのは確かだ。

次は心理的拘束の面を見てみよう。

例えばLINEのような通信アプリでは、気軽にメッセージが送れる半面、その返信がすぐに返ってこないとなつて仕方がない場合がある。

子どもたちの場合は特にそれが顕著。返信が遅く「シカト?(無視)」と悪意に取られるのが嫌で「できるだけ早く返信をしなくては」と心理的に

追い詰められ、スマホを手放せなくなる子どもも多い。

「ひと月待たした手紙の返事、メールになつて一週間、LINEになつて一時間?、待てなくなつて、せわしないね」。14年9月、京都市の佛光寺にて掲げられた標語だ。

LINEをはじめとした通信アプリは上手に付き合わないとも心も時間も支配される危険性がある。特に子どもは大人以上にその傾向が強い。今一度親子で時間や方法について話し合つてほしい。

LINEをやらないとしても、小中学生のネット時間は一日1時間以内に。それ以上ではさまざまな悪影響が出る可能性が高い。



ネット5 トラファル

どう防ぐ?



今の10代にとって、テレビは過去のメディア」となりつつある。ネットの「動画サイト」の存在である。

もともとネット動画は

人気だったが、近年の技術進歩で劇的に一般化。ビジネスチャンスも高まり、動画共有サイト、動画配信サイト運営にもさまざまな業者が参入。最大手はYouTube(ユーチューブ)だが、他にもニコニコ動画をはじめとしてFC2動画、Vine、Daily Motion、Twitter Casting、Mix Channelなど。

そして、今や子どもたちも大切な顧客で、多くの子がパソコン、スマホ、タブレット、ゲーム機など、各々の端末を駆使して動画を楽しむ。

もちろん合法で、とがめることは何もない。心配なのはそれを長時間見続け、時間を浪費してしまつ子が非常に多いことと、違法動画(外国のサイトに違法で上げられた日本のアニメなどもそれと気づかず視聴してしまっていることだ。

しかし、もつと心配なのは「動画の投稿」。ここが既存のメディアと決定的に違うところで、動画

サイトの多くは視聴者が自分の動画を投稿できる仕組みが整う。スマホでも、撮影した動画をすぐ

に編集し、投稿できる。

これも行為自体は違法ではない。しかし、子どもたちは著作権保護、個人

憧れのユーチューバー!?

お金が絡む動画投稿に注意



を投稿し、そこから出る収益で生活している人のことである。

「はじめしゃちょー」「ヒカキン」という有名ユーチューバーの収入は1000万円近いとの報道も(日経コンピュータ2015年9月25日)。今、彼らに憧れる子どもが非常に多く、都内のある小学校の今年の卒業文集では、将来になりたい職業No.1はユーチューバーだった、との話も聞いた。

情報の流失防止、倫理的な問題などの全てを適切に対処できているだろうか。

「ユーチューバー」という言葉をご存じだろうか。ユーチューブに動画

お金を絡むとなると、再生回数を増やすために「もつと注目されたい」と思い、結果的に「過激なもの」「性的なもの」「犯罪に絡むもの」に走りやすい。「ユーチューバー」に憧れた子どもが、そついった方向に行かないことを切に祈るのみだ。

私も数カ月前にユーチューブに動画を投稿してみた。撮影した動画と作った音楽を編集して公開したところ、現在1万8000回ほど再生。「広告収入を得る」という設定なのだが、確認すると収益は0円。より収益の上がる方法や設定があるのかもしれないが、少なくとも一般人が簡単にお金を得られる世界ではないことだけは確かだ。

どう防ぐ?



ネットトラファル ⑥

今回はゲームについての話題である。まず言いたいのは「ゲーム＝悪」ではない。また子どもが悪いわけでもゲーム製作会社の存在が悪いわけでもない。しかし今、子どもたちとゲームの関わりにおいて、以前とは別質な大きな問題が起きていることを知っていたきたい。

かつてファミコンなど据え置き型ゲーム機が世間を席巻したが、今のゲームの主流はネット接続を前提としたデジタル配信型。これがゲームコンテナ市場の8割を占める(ファミ通ゲーム白書2015)。注意すべき

は、これが今までのそれとは中身も仕組みも全くの別物ということ。心配は主に2点。時間と中毒。そして課金制度だ。

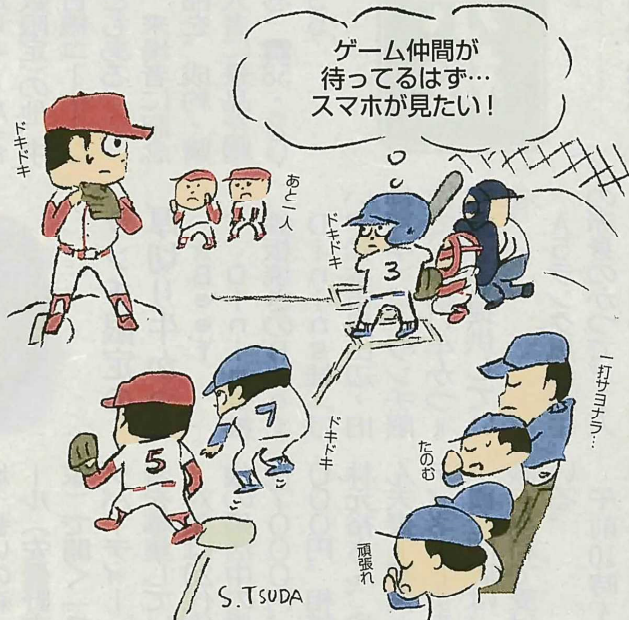
まず時間、そして中毒性の心配について。

かつてのゲームは場面をクリアし、それを続けていけば終了だった。しかし、ネットゲームには「終わりがない」。運営会社はできるだけ長くゲームで遊んでほしいため、次々と新しい仲間、場面、敵、アイテムが出てくる。そして時間をかけ、お金を払えば、より有利な武器、技、仲間が手に入り、より深いステ

ージへ入っていきける...。この誘惑に勝つには強い意志が必要。しっかりやめよう」と決意しないとやめられない子が出てきてしまう。

終わらないネットゲーム

中毒や課金防ぐ自律が大切



◇ もつ一つの心配は金のこと。

ネットゲームの多くは無料で始められる。しかし、膨大な費用をかけて

作ったものが無料で遊べるはずがない。どのゲームもあの手この手で集金する仕組みを確実に備える。

ちなみに(株)LINEの収益は50%がゲーム課金、30%がスタンプ売り上げ。LINE登場前に絶好調だったSNSのmixiは一時倒産寸前になったが、ゲーム(モンスト)のヒットにより業績を回復している。ネット運営会社にとって、ゲームは命綱のことが多いため、必死に利益

を上げようとしている。

◇

繰り返しになるが、子どももゲーム会社も悪くない。ゲームで脳機能や処理能力が向上という説もある。ただし自律できない子どもにとって、ゲームは大きな危険性を秘めている。大切なのは本人の自制・自律。「既に1時間やったからやめよう」「課金は絶対にしない」と、自らをきちんとコントロールする自信がない子どもは、ネットゲームから距離を置いた方が賢明だと思う。

ネットゲームをした、いと子どもに言われた時、大人はその子の性格や状況を判断し、危険性を理解した上で、相談や助言をすべきだと思う。

どう防ぐ?



ネット・トラブル

「しよどい」「とりま」「あーね」「り」…。これは暗号でも、外国語でもない。青少年がネット上で普通に使う日本語会話だ。極端に省略してあるが、それぞれ「正直しんどい」「とりあえずまあ」「ああ、そつだよね」「了解」という意味になる。

今回はネット上での「文字」と「意思疎通の関係」について述べたい。SNSにしてもメールにしても、ネット上での会話は文字が基本だ。特に子どもたちのネット会話は極端に短い言葉が、連続的に交わされている。推敲(すいこう)している。推敲(すいこう)している。

「しよどい」「とりま」を全くせず、会話をするかのごとく、ポンポンと思いついたままに送り合う。そして省略しすぎるゆえ、加えて短時間に多頻度過ぎるゆえ、相手を傷つける言葉を発してしまつた危険性をもつ。

一例を挙げよう。子どもたちにとって「ヤバイ」という言葉は両極端の2つの意味を持つ。何かを褒め称(たた)える場合も、非難や危機的状況も「マジ、ヤバイ」になる。面と向かつて話してれば誤解はないが、文字だけでは読み違つた危険性も持つ。

もともと日本語には省略の文化がある。例えば

『万葉集』には死者を悼(たも)む「挽歌(ばんか)」があるが、「死」という言葉はストレートに出る。相手をいかに「死」たわるからこそ直接的表現

文字と意思疎通の関係

両極端の意味にとれる誤解

読み違う危険性



S. TSUDA

現を避けている。しかし、万葉集の時代には「多頻度かつ即時の返信」は要求されていない。ネットでの会話ではじっくり考える時間的余裕がないから

字の情報」はコミュニケーション手段として、想像以上に非力と言えそう

らこそ、誤解を生みやすい表現も出てしまつた。

加えて別の観点だが、トラブルとなる書き込みをする時間帯は午後9時以降が多い。医学的根拠は不明だが、夜間の子どもの文字での発言は、生理的な興奮もあるのか、過激な表現が多いことは確かだ。

米心理学者アルバート・メラビアンは、発せられたメッセージと人の行動について研究をまとめた「Silent messages」(1971)。詳細は略すが、感情や態度について矛盾したメッセージが発せられたとき、行動に影響がある刺激は、内容などの言語情報が7%、口調や話の速さなどの聴覚情報が38%、見た目などの視覚情報が55%。つまり文

大人であってもメールや書き込みでトラブルになることもある。当然子どもたちにとっても文字だけのやり取りは非常に難易度が高い。こうした観点からも、子どもたちのLINEやメールのやりとりが、とても心配になつてしまつたのは私だけだろうか…。

どう防ぐ?



子どもの

ネット・トラブル

8

心配される子どもたちのネットトラブルに「相手を強く攻撃する」「個人情報などをばらしたり噂(うわさ)話を広げたりなど、無責任な発言をする」などの行為がある。自分勝手なこれらの行為からは、相手を尊重し、その立場に立つて考える相手意識が全く感じられない。現代社会全体の課題なのかもしれないが、ネット上では極端にその傾向が強い。

ネットは現実社会以上に「悪を許さない」世界。負の行為は必ず誰かに発見され、拡散し、書き込み主への攻撃が始まる。個人情報暴露され、社会的に抹殺されてしまう例も少なくない。

では、こうした悲劇を防ぐために何が必要なのか。私は「現実の人間関係のトラブルとその処

理をきちんと経験していくことしかないと思う。精神的に人と子どもが同居している十代は、人間関係の難しさに直面

する時期でもある。子どもたちは学級、部活、地域といった集団や家族、先輩・後輩、親友、恋人など、人間関係の複雑な

相手意識の欠如

「思い悩み解決」経験が大切



〈匿名に見えるネット空間での悲劇〉

でいくのだ。

しかし、ネットが介在してしまつと、そういったドロドロしたものを一気に飛ばして、「友人ができたような気になってしまつ」ことが多い。

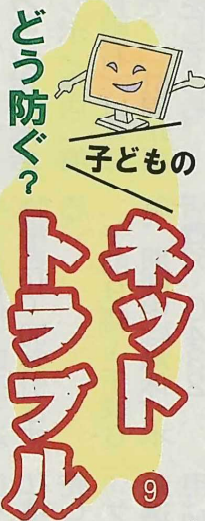
LINEやフェイスブックなどのSNS(通信アプリ)では「友だち検索がフル活用されている。とても簡単に「友だちに追加」もできる。また「友だち作り」今遊

上下感や水平感、心理的距離感を、傷つけたり傷つけられたり、失敗したり褒められたりしながら体得していく。価値観の違いという心理的な衝突から、自分を理解し、他人と付きあう方法を学ん

べる人募集「恋人募集」の機能も多彩で、子どもを含めた多くの人が毎日普通に利用している。もちろん、それを否定する気は全くない。

ただし、「ネット上だけの希薄な繋(つな)がり」を「友だち」と勘違いしてしまつ環境」が今の子どもたちのすぐ近くにある、という現実だけは、大人は理解する必要がある。

目の前の友だちや先輩・後輩とつまづいかず、思い悩みながら解決していくという経験が、実は、人として生きていく上で非常に大切な学習であり、そこにネットは介在しないほうがいいと思うのは自分だけだろうか。



どう防ぐ?

ネットトラブアル 9

今回は医学的な観点から、ネットと子どもたちの心配について書きたい。

かつては、携帯電話の「電磁波が心配」という意見が多かった。つまり、電波が脳に悪影響を及ぼしているという説だ。確かに、今の携帯(LTE・3G)に使われる周波数帯域が完全に安全、という保証もないが、関連性を証明しにくいこともあり、その論調は下火だ。

今、一番言われている心配は「依存」。利用時間が長くなり、生活自体に支障が出ているケースが多い。

ある小児科医は「一番

の心配はゲームや動画への依存と、それに関わる不規則な生活スタイル」と語った。また、寝る前に画面を見過ぎて、ブルーライトなどの刺激により、睡眠時間や就寝時間が不安定になることも心配する。

ブルーライトは可視光線の中で最も波長が短く、強いエネルギーを持つもので、機器のディスプレイやLED照明には多く含まれていると言われている。大切なのは「就寝2時間前は機器に触らない」とのこと。また、便乗商法として粗悪な品を「ブルーライト低減」と言って販売する業者も

あるので十分な注意が必要だ。はい治療の接骨院の先生は「長時間、手元の固定される。結果的に首の

〈不規則な生活スタイルに〉



下を向いた姿勢は内向的になりやすい

依存からくる生活への支障

医学的な心配事

筋肉と神経が疲労し、頭痛が起こりやすくなる。また、うつむきながら下を向いている姿勢は心理的にも内向的になりやすいとのこと。

別の視点として。

最近、乳幼児ママが使う、スマホの子育てアプリの是非が話題になっていいる。乳幼児がグズる際、音や動画であやしてくれ、というソフトだ。私も子を持つ親として「少しでもおとなしくしてくれるなら」と機器に頼ってしまう気持ちには痛いほどわかるし、実際、長距離移動にはアニメ視聴に頼ってしまっている。

しかし、視力や依存の面から、子育てアプリは

問題があると思う。少なくとも「便利だから」と常用していると、幼くしてネット依存の子どもを作ることになりかねない。絵本や折り紙、塗り絵、糊(のり)とはさみなどを活用すれば、外出先でも幼児が飽きない工夫はできると思う。

いつも書くのだが「スマホやネット」悪くはない。スマホは便利で魅力的だが、あまりにも性に普及してしまっただけ、使い方のこつや特性について理解が少ないことを心配しているだけだ。

IT機器の長所・短所を正しく理解して、適宜利用することが、現代人として求められていると感じる。

どう防ぐ?



ネットトラブル 10

今回はネットを利用する際の認証とパスワードについて。

ネット上で個人を識別する「認証」にIDとパスワードが要求される今の仕組みは1963年ごろから使われていて(マサチューセッツ工科大学CITS)、「いわば過去の技術」。

日ごろ見聞きする情報漏洩(ろうえい)のニュース。もちろん非は企業側にあるが、技術的な限界もあり、絶対的な安全は難しいのが現実。

しかも個人情報流出するだけでなく、金融系ならば預金が盗まれる危険性も。警察庁の201

5年資料によると、不正アクセスで口座から現金が勝手に引き出された額は全国で30億円。旅客機で座席から娯楽システム経由で制御システムを乗っ取ったり(ベンチャービート2015)、自動車を外部からエンジン止めたりする例も報道されている(ロイター2015)。

大切なのは「パスワードをきちんと管理すること。パスワードのつけ方において重要なのは、①他人が類推できないもの、英単語はできるだけ避け、長いもの、②サイトごとに異なるものをつけること」。

他人が類推できる誕生日や電話番号が入っている文字列と、共通のパスワードをいろいろに使い

に覚えることは無理」という方には、さらに以下の2つの解決方法がオススメ。

IDとパスワード

全ての鍵アプリなどで嚴重に

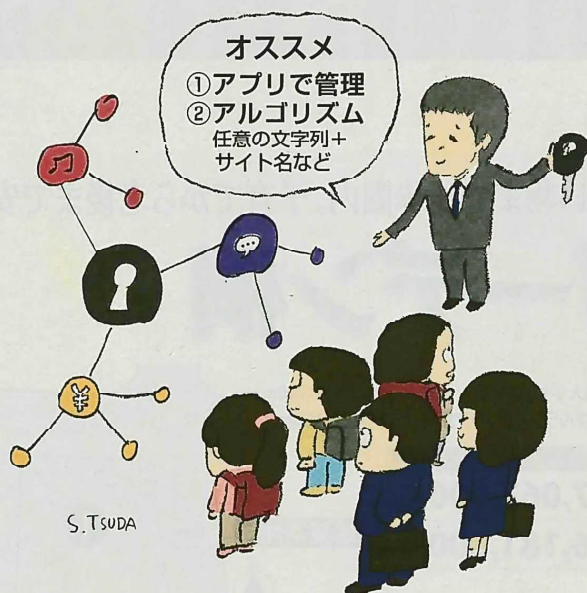
①パスワード管理アプリやブラウザの管理機能を使う。

②「アルゴリズム」でパスワードをつける。

PCでもスマホでも、パスワード管理のためのアプリが多数、無料で提供されている。これを使えばかなり安全性は上がる。

「でも別のアプリを使うのはちょっと」という方にお勧めなのが、②のアルゴリズム活用。

これは「文字列+サイト名」など自分で決めた構文のみ覚えておく方法で、例えば「任意の文字列



S. TSUDA

「+サイト名」とした場合、任意の文字列「matsu390」としたとすると、ヤフー用ならば「matsu390+yahoo」となる。より強固にしたければ、文字列を前後で挟んだり、2回にするなど増やしていけば尚(なお)よい。

紙に書いておく方法も完全に忘れてしまつよりは良い。また「定期的に変更する」ことを勧める人もいるが、私はある程度強固なものを作ってしまったら、その必要性は薄いと考える。

とにかく、ネット上ではIDとパスワードは全てにおける鍵。工夫しながら嚴重かつ個別に管理をし、情報や財産を守るしかない。

どう防ぐ?



ネット トラブル ⑪

「ネットは匿名の世界。誰が何をしていてもバレない」。その勘違いして「爆発予告メール」「殺人予告メール」など匿名を前提にした犯罪行為が後を絶たないが、言いつまでもなく、ネットの世界は匿名の世界ではない。ネット上の行為の多くは情報発信が伴い、結果として個人特定が容易なことも多い。

例えばデジカメの写真。画像だけでなく、撮影日時、シャッタースピード、ISO感度などさまざまな情報が同時に記録されている。場合によるGPSによる位置情報

も記録されていて、撮影箇所が簡単にわかってしまつ。スマホで「こんな料理を作りました」「うちの犬です」と写真を撮って公開するだけで、その撮影場所も大公開してしまつていて、例が非常に多い。ネットに公開する可能性があるのならば、スマホのGPSは切つてから撮影するべきだ。

電子メールも「ヘッダー情報」という部分に、誰がいつ、どこからどこを経由して送られてきたのか記録されている。つい先日「浜松市内の小学校を爆破する」と自分のスマホからメールを送

つてしまった女子中学生がいたが、すぐに特定されてしまった。

は生の文字がそのまま送受信されているので、クレジットカード番号などを直接書くのも危険。

「匿名の世界」という幻想

情報発信にはモラルと節度

メールこそ匿名性から最も遠いところにある仕組みの一つである。

「ホームページを見るだけなら、こちら側の情報は伝わるはずがない」と思ふ人もいるがそれも

少し見ただけなのに、全く別のページでも同種の広告が表示される、という経験はお持ちではないだろうか?

これは「行動ターゲティング広告」と呼ばれるしくみで、ユーザーの動きと嗜好(しこう)を記録・識別し、別なサイトでも興味のありそうな広告を表示する、というもの。ユーザーの嗜好や動きが即座に蓄積・分析され、反映されている一例だ。

これからの新しい技術・サービスがどんどん出てくるであろうネットの世界。しかし匿名で何でもできる」ということにはならないことだけは確か。実社会以上にモラルと節度ある利用が必要だと思ふ。



S. TSUDA

もっとわかりやすい例を挙げよう。

ネットで気になる商品をショッピングサイトで

どう防ぐ?



ネットトラファル¹²

近年、消費生活センターに「ネットゲーム課金」についての相談が多いという。特に10代前半の子どもを持つ親から「子どもが数十万円使ってしまったが…」と。今回は、企業対消費者の例として、ネットゲーム課金の支払い方法について説明する。

支払い方法は大きく以下に6種類。①クレジットカード②携帯決済方式(携帯電話の料金と一緒に払う)③コンビニで買える紙の専用カード、ギフトカード(iTunes Card、Google Playギフトカードなど)④電子マネー

ー(ウェブマネー、BitCash、Edyなど。コンビニで購入可)⑤コンビニ決済方式(コンビニ店頭のマルチメディア端末で購入可)⑥プリペイド式クレジットカード(前払いのクレジットカードを作成できるカード。コンビニで購入可)大金を使ってしまう例の多くは②携帯決済方式。トラブルを防ぐには契約時に「携帯決済方式を認めない」契約にするのが良い。携帯ショップに行けば確認・変更できるので、心配な方はすぐに行くことをお勧めする。

最近、心配なのが③以

降。

例えば③専用カード。

コンビニのレジ近くにズラッと掲げてあるこのカ

ゲーム課金の仕組み

心配なプリペイド式クレカ

る。昨年度話題になった「LINEのなり済まし」で大勢詐欺にあった方法がこれだ。

特に心配なのが⑥プリペイド式クレジットカード。例えば5000円+手数料(数百円)で、5000円分のVISAカードが持ててしまう。ネット利用限定で1年間の期限がついたりするが、子どもでさえも任意名義のVISAカードが作れてしまうことはあまり知られていない。これを使えば誰にも知られずに、クレジットカードでしか決済できないショッピング

グサイトでの買い物や、大人向け有料サイトの利用もできる。

「うちの子はネットゲームにお金なんかかけていない」と親が思っても、コンビニに行けばさまざまな手段でネット上のお金を得られてしまうのが今の世の中。特に、子どもでも匿名のクレジット決済のカードが作れる事実、大人たちは関心を持っても良いと思う。

技術の進歩、サービスの多様化が悪いわけではない。子どもたちはそれを上手に利用しているだけだ。大人が子どもたちの行動に関心をもち、何をしているのか、普段から細かなコミュニケーションを取り、それを活用する方法を共に考えていくことが大切だ。



ネットトラファフル¹³

子どもの

どう防ぐ?

日本国内で大きな問題になっている子どもたちのネット利用。今回は世界の事情を、私が見聞している範囲で紹介したい。

今や地球上のほとんどの国や地域で、携帯電話のネットワーク、そしてインターネット環境は進行。アジア、南米、アフリカ、旧東欧などでも、ネット環境は劇的に整備されてきている。

も多い。教材や課題がネット経由のことも多く、通学バスの中で無線LANが使える環境になっている場合もある。また学校内でのタブレット使用も増え、保護者や地域にiPadの寄贈を呼びかけることも多いのと。しかし、急激な普及でさまざまな問題が頻発している。

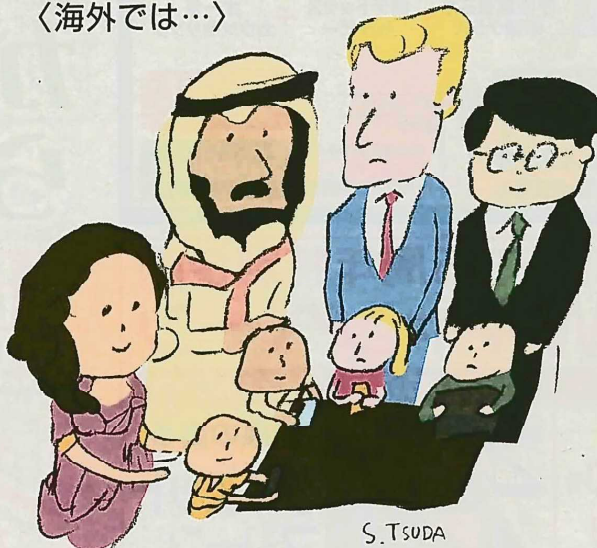
韓国では日本以上に高速回線が早く普及。その結果、死者も出るほどネットゲームに没頭する人が続出。政府は2011年11月、16歳未満の子が

午前0時から6時までの「ダウン制」を始めた。間、オンラインゲームを中国の場合は、青少年禁止する法律「シャット」のネット依存が深刻化。

世界の事情

依存深刻化 知恵を絞り対策

〈海外では…〉



S.TSUDA

長年にわたる一人っ子政策の結果、親の愛情を独占し、甘やかされて育った若者が、「楽で高給」な、希望する職種に就けなければ自宅に引きこも

の元に、教育省及び地方教育委員会と連携しながらネット安全教育を推進している。

り、そのままネット依存症に陥るケースが多いのだという。

各国、それぞれの機関が知恵を絞り、さまざまな対策を講じている最中だ。

イギリスでは、教育部門を併設した警察調査組織CEOP、教育工学に関わる研究機関Beeta、そして教材開発を行う非営利組織「チャイルドネット・インターナショナル」等が、政府主導

アメリカ小児学会は「小児科医は子どもが来院した時に『子ども部屋にテレビ、インターネット環境があるか』『どれくらいの時間、メディアを使うか』の2点を聞く必要がある。接触時間は1日2時間を上限とし、2歳以下の子供には一切接触させないことを勧めるべき」と提言している。

ネットトラファフル問題を解決する特効薬はない。危機感を持ち、現状の理解に努め、解決に向け知恵を集めるしかない、と

いつことだと思つ。

どう防ぐ?



子どもの

ネットトラブル

14

子どもたちが陥るネット被害は、友人関係によるものと、悪徳業者など第三者から受けるものに大別される。ここでは後者について述べたい。

ネット被害の種類や方法はさまざまだが、大きくは①だまして金銭を取り上げる②困らせて喜ぶ③の2種類。

①の特徴は「とにかく理由をつけて金銭を要求する」ことで、基本的に振り込め詐欺と同類。

最近の一例を挙げると「スマホの無限ループ詐欺」。これは、スマホで性的動画サイトを見ていると突然「あなたは登録

されました。お金を支払いますか?それとも電話をかけて解約しますか?」という画面が出てくるもの。キャンセルを押すと電話発信の画面になり、それをキャンセルすると支払いの画面になり永遠に消えない!という詐欺だ。

こういった金銭要求は全て不当であり、払う必要は全くないので、「無視」すればいい。

請求画面は消えないようにみえるが、実は簡単に対処できる。まずホームボタンを押す。一時的にだがポップアップ画面は消えるので、あとはそ

の画面が出ないようにす
ればいい(ブラウザの設定
p.tをoffにし、履歴

ネット被害

犯罪の対処法を親子で確認

を消す)。実際には詳しい方に聞いたり、サイバー警察に相談するのが良いと思う。

②は、ウイルスに代表

真、電話番号帳、メールなど、流失してほしくない個人情報。特に新作アプリの管理の甘いアンドロイド系スマホのマルウェアは激増中だ。適切な対策アプリの導入を勧める。

される「マルウェア(悪意のあるソフトウェア)」。メールやウェブサイトを經由で機器に侵入して誤動作を起こさせ、データを消したり、個人情報を勝手に送信したり、キー入力や秘密に保存し送信したりする。

PCのウイルス対策は多くの方がされていると思うが、心配なのは、近年スマホ用が多数出現していること。例えば、2011年に比べ12年は300倍のマルウェアが出現している。スマホは写

残念ながら、実社会の犯罪と同様、ネット上でも、犯罪者とその対策はいたちごっこ。子どもが自分のスマホを持っている場合、こういった犯罪者からの攻撃を、自分だけで何とかしようとすると深みにはまる場合が非常に多い。やはり、中学生以下はスマホを持たないことが理想だが、もし持っている場合は、こういった犯罪の対処のしかたについて親子で話しておくことが重要だ。



S. TSUDA

どう防ぐ?



ネット トラブル 15

子どものネット問題が頻発し、重症化してしまふ根本的な要因として、大人より子どもの方が、ネットの新技术や新サービス、情報機器の使いこなしが確実に進んでいる「大人と子どもの逆転現象」がある。

私事で恐縮だが、8年ほど前から、年に20回ほど、依頼された小中学校や地域の方向けに、ネットトラブルの解決法をお伝えしている。今の話の中心はLINEへの対処法だが、振り返れば数年前ならグリー、モバゲー。その前はプロフやホームペ、その前はワンクリや着メロ詐欺など、時代によつて内容は激変してきた。

しかし、どの時代も共通して言えることは「子どもと大人の意識が全く違う」こと。子どもたちは常に最先端の技術を縦横無尽に活用しているの

に、大人は自分の概念のルが起きてから「まさか中に生きていて、トラブル そんなことが…」「まさか

大人との意識の乖離

「逆転現象」が要因 重症化に



かうチの子が…」と気づく場合が非常に多い。子どもたちは音声入力、クラウド、多種多様のwebアプリなど、便利で複雑な最新機能を抵抗なく使いこなし、必要な情報のほとんどをネットから仕入れる。アイドル情報、聴きたい音楽、見たいアニメも、検索し即時に入手できる。そして興味の向くまま、各自の世界をどんどん取り入れていく。

新しい技術に抵抗がなく、既成概念や体験が乏しいため、目の前のものをそのまま受け入れられるが、経験が乏しいからこそ、架空と現実を取り違えることも出てくる。

ネットに精通してしまうが故に、不純異性交流、性的情報、違法物品、薬物、犯罪方法など、知つてほしくない情報にも、大人以上に触れてしまふ危険性もある。

大切なことは▽親がネットやスマホの危険性を理解すること(アンテナを高くしておくこと)▽子どもたちが何をやりたくて、何をしているのか知ること▽新しい技術やサービスについて、柔軟な意識を持つて対応できること▽トラブルに遭ったとき、きちんと話せる関係を築いておくことーなど、大人と子どもの普段の心の対話、行為の確認が何よりも重要だと思う。

どう防ぐ?



ネット トラブル 16

ネットショッピングに代表されるネット上での売買「電子商取引(eコマース)」が急成長を遂げている。しかし、現物・現金を介した対面販売でないだけに、さまざまな課題も山積。今回は利用急増中の電子商取引について書きたい。

イメージや送金、配送、返品方法など、慣れや多少の知識が必要なこともある。特に注意なのは、ネット上で商品を購入した場合、「クーリングオフが適用されない」こと。子どもが誤って「ゲームソフトを100個」と注文してしまった場合でも、購入義務が生じる場合がある。

①として、販売者が悪意を持っていないにも関わらず、購入者との意思疎通が不十分な場合のトラブルがある。写真と実物の相違(色、サイズ、

②として心配される代
表例がフィッシング詐欺。これは本物そっくり
に作った偽物のサイトに
誘導し、個人情報を入力
させるといふもの。防ぐ
ためにまずは正規サイ
トか偽物なのかを見分けて

ほしい。

ポイントとは2点。

一つはhttp://
で始まるURL(ホーム
ページアドレス)。正規
ことが多い。スマホやタ

サイトは短く社名がその
まま入っていることが多
いが、詐欺の場合は意味
不明な長い文字列である
ことが多い。スマホやタ

ネットショッピング

「電子商取引」利点の裏には



ブレットでもURLは表
示されるので確認を。
もう一つは、個人情報
入力の際、そのページの
アドレスの最初が「http://」から「s
s://」になり、画面

(代金の支払い時期と方
法、商品の引き渡し時期、
キャンセル方法など)の
記載▽返品条件(可否や
条件)の記載▽「http://」の有無の
確認を。

のどこかに「鍵マーク」
が表示されていれば正
規。これはSSLという
個人情報暗号化技術が
使われている証拠で、
まともなサイトなら
ば確実に使っている。

また、あまり有名な
いサイトを利用する場
合は、その会社やペー
ジの信ぴょう性を確
認するため、▽販売
業者の連絡先(実店
舗の有無、所在地
や電話番号)の記載▽
特定商取引法が定め
る事項

ここに挙げたものをす
べてクリアしても絶対
安全とは言えない。で
きるだけの知識を持
ち、利点と心配をしっ
かり意識して、賢く
使うのが大切だと思
う。

どう防ぐ？



ネット トラブル 17

これまでさまざまな視点から、子どもとネット

薬はない。

更に、秒進分歩と称さ

る関係について心配される観点を要点的に取り上げてきた。オークション

やSIMフリー格安スマホなど、書きたい内容は

まだ多数あるが、専門的すぎて不適合と感じ、この稿でまとめたい。

この稿の全てに通じるが、一番重要なのは「ネット＝悪」「スマホ＝悪」ではないということ。ネットにかかわるトラブル

は全て「ヒト」が作りだす。強固なシステムを構築しても、ヒトが操作している限りトラブルは必ず起きる。残念ながらネットトラブルに効く特効

薬はない。更に、秒進分歩と称されるIT業界。今回書いた内容もすぐに陳腐化する。正直言って今回の内容の「賞味期限」は「半年」だと思う。1年後には新しい技術やサービスが生まれ、それに伴ったトラブルも生じるはずだ。

しかし、「良いものは良い、悪いものは悪い」という普遍的な道徳的価値観はネットの世界でも変わらない。

正確な欲しい情報が手に入ればうれしいし、時間や費用を節約できるサービスはありがたい。悪口を書いたり、誰かを仲間外れにしたりするのは

悪い。簡単にお金ももつかるはずもないし、無料で十分なサービスが受けられることもおかしい。

悪い。簡単にお金ももつかるはずもないし、無料で十分なサービスが受けられることもおかしい。

共生していく社会へ

本質を見抜き回避、解決を



変わる。大人は自分の価値観に自信を持ち、ネットトラブルの本質を見抜いて、子どもと解決を目指すしかない。

①目の前の友だちとしっ
かり話そう②運動・ス
ポーツをしよ③たくさん
の本を読もう④自然や動
物、植物とふれあおう⑤
(お手伝いを含めた)い
ろいろな「体験」を増や
そう⑥家の人といっぱい
話そう。

に大切な項目を挙げる。
①悪口は絶対に書かない
②個人情報(特にフル
ネーム)を死守せよ③ネ
ットはウソがいっぱい
(そのまま信じてはいけ
ない)④LINEはトラ
ブルのもと。小中学生は
やめよう⑤ネットに自分
の情報を絶対に載せない。
写真も載せない。

このつたない稿が、子どもたちのネットトラブルの回避に少しでも寄与できた望外の喜びである。最後まで読んでくださった読者の方々及び関係各位に深く感謝して、まとめたい。本当にありがとうございました。

これを守れば、小中学生のネットトラブルはほとんど守れると思う。反対に、子どもたちに今やってほしいことは、

おわり